

Examining the factors of burden among family caregivers of older adults with diabetes mellitus regarding a development model

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00061288

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



博士論文審査結果報告書

学籍番号 1729022020

氏 名 Huong Thi Thu Pham

論文審査員

主 査（職名） 毎田佳子（教授）



副 査（職名） 多崎恵子（教授）



副 査（職名） 加藤真由美（教授）



論文題名 Examining the factors of burden among family caregivers of older adults with diabetes mellitus regarding a development model（開発モデルにおける糖尿病高齢者の家族介護者の介護負担要因の検討）

論文審査結果

【論文内容の要旨】

糖尿病（DM）の高齢者では DM の合併症や加齢による心身機能の低下があるため、介護する家族への負担は大きく、負担要因を明らかにし、軽減していくことが課題としてある。研究目的は、理論的に開発したモデルに基づき、DM 高齢者の家族介護者の介護負担（心理的・身体的・社会的負担）要因を検討すること。モデルは、Pearlin らのストレスプロセスモデルからストレス要因を設定し、負担を軽減する仲介要因として Bandura のセルフエフィカシー理論から自己効力を向上させる要因、および Scarton らのコーピング（適応）機能のメカニズムから家族介護者の活動（DM に関する知識をもつこと、DM 患者への介護技術をもつこと、社会的支援を得ること）が支援される要因を設定した。対象者は主家族介護者であり、ヴェトナムの 1 ヶ所の病院（1,000 床）でリクルート（3 ヶ月間）した 161 名のうち参加に同意した 151 名（93.8%）であった。対象者に識字的問題が予測されたため、データは構成的質問票を用い聞き取り調査により収集した。対象者の 7 割は女性で、3 割は 60 歳以上であり、3 割が慢性疾患をもっていた。線形回帰分析では、家族介護者が慢性疾患をもっていること（ $\beta = .20$ ）、高齢者への介護時間数（ $\beta = .15$ ）、介護自己効力（ $\beta = .16$ ）、DM ケア支援と社会的支援に向けた介護者の行動（ $\beta = .39$ ）が介護負担に係わる要因であった（ $F = 10.395$, $p < 0.001$, $\text{Adj}R^2 = .41$ ）。パス解析では、家族介護者が慢性疾患をもっていることが直接的に介護負担につながっていた。高齢者への介護時間数は直接的に介護負担に係わっているのみならず、自己効力と DM ケア支援と社会的支援に向けた介護者の活動にネガティブに影響を与えていた（ $\chi^2 = 1.207$, $p = .751$, $\text{CFI} = 1.000$, $\text{GFI} = .997$, $\text{SRMR} = .000$, $\text{RMSEA} = .000$ ）。介護負担の軽減には、介護者自身のセルフケアを行う時間を増やすこと、介護時間を軽減させるために社会的支援を探すことや介護に関する知識と技術をもつこと、自己効力を向上させるためにコーピング（適応）スキルをもつことの支援が必要であると示唆された。

【審査結果の要旨】

DM 高齢患者の家族介護者の介護負担要因についてのモデル開発は世界的に新規である。介護者の負担が長期となれば抑うつ発症につながることから、本研究成果はその予防に貢献すると考えられる貴重な知見となった。公開審査会では質疑応答を適切に答えていた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。